



地域の発展へつなぐ

地震・津波対策のホットな情報を発信



6月1日に大阪（科学技術センター）で、8日には東京（発明会館）で新技術セミナーが開かれました。テーマは「下水道における地震・津波対策について」。基調講演では、「地域防災計画からBCPへの展開～下水道BCPの策定を通して～」で中林一樹・明治大学大学院特任教授が貴重な知見を披瀝。また、堀江信之・国交省・国土技術政策総合研究所下水道研究部長の「下水道事業における地震・津波への備えと放射能汚泥対応～地震・津波対策技術検討委員会報告等を受けて～」に引き続き、「宮城県における取り組み～県内における復旧の取り組み～」で三宅淳・宮城県土木部下水道課技術補佐、「下水道設備における対応と今後の取り組みについて」で田村邦夫・（株）東芝東北復興推進室副室長の関連報告などが行われました（本紙で概要を掲載）。本機構の尾崎研究第一部長から、本機構が取り組んだBCP等定マニュアル改訂、津波シミュレーションを活用した下水処理場の耐津波対策の共同研究について説明。興味深いテーマだけに東京・大阪会場ともに立錫の余地もないほどの参加者が出席。最新の情報に熱心に耳を傾けていました。



5件に成果証明書を交付



3月29日、本機構会議室で平成23年度第2回新技術研究成果証明書交付式が行われ、5つの共同研究完了を受けて、成果証明書の交付が行われました。冒頭、石川忠男理事長は、共同研究の意義を説明するとともに「研究成果が数多くの現場で使われるよう技術資料やマニュアルを作成し、活用に向けて広報活動を行っていききたい」と強調しました。

津波解析で被害を想定

東日本大震災を踏まえた下水処理場の津波対策を検討する「平成24年度第1回横須賀市下水処理場等の津波対策基本計画に関する検討委員会」（委員長＝藤間功司・防衛大学校システム工学郡建設環境工学科教授、事務局＝本機構）が4月26日に開催されました。西浄化センターでの津波シミュレーションの解析結果などが議論されたほか、最大クラスの想定津波の考え方が紹介されました。（本誌で概要を掲載）



管路の耐震化技術で講演



5月10日に開かれた第304回技術サロンでは、横田敏宏・国土技術政策総合研究所下水道研究部下水道研究室長が「下水道管路施設における耐震化技術の有効性」をテーマに講演を行いました。横田室長は東日本大震災での被災状況の分析から管路施設耐震化の課題をあげ、「今後は現場条件に適した工法選択が可能になるよう、液状化対策工法の事例再整理と液状化対策効果を確実に発揮するための施工・品質管理方法について検討を行う必要がある」などとまとめました（本誌で概要を掲載）